

普及活動情勢報告（平成29年8月分）

中央西農業振興センター 高知農業改良普及所

加工品の販路拡大に取り組んでいます ～6次産業化支援チーム会～



アドバイザーと供に協議中

昨年度、6次産業化セミナーを受講したNPO法人「まあるい心ちやれんじどの応援団」の「菓子工房レネー」が、セミナーで開発した「オーツブランスクーン」の販路拡大を目指して、今年度から6次産業化支援チーム会として取り組みをスタートしました。

7月27日のチーム会では、6次産業化サポートセンターのアドバイザーから助言を受けながら、売り込みたい店舗の絞り込みや、パッケージのデザインの方向、県商品力強化事業費補助金の活用について検討しました。

普及所としては次回までに原価計算や、バイヤーにパッケージの試作段階で商品の改善点を聞き取ることなど助言を受けた取り組みが進むよう支援していきます。

集落営農組織を法人化へ ～梅の木ファーム～



法人化に向けて意見を統一

7月28日、高知市鏡地区の梅の木公民館で、梅の木ファームの組合員ら10名が集まり、法人化へ向けての検討会を行いました。

普及所は、地域農業推進課と連携して、法人化への基礎知識や法人化した場合の必要経費の算出方法や経営内容のシミュレーションを行いました。出席者からは、「法人化した場合に、今の事業はそのまま継続できるのか?」、「梅の木便りを出してもっと地域にPRしていこう」などの質問や意見が多く出ました。会の終了時には、意見の統一が行われ、法人への移行が決まりました。

今後、普及所は視察研修や勉強会を実施し、梅の木ファームの法人への移行を支援していきます。

輸出まで視野に入れた販路拡大を ～グロリオサの鮮度保持剤の検討～



処理ごとに品質を調査

高知市三里地区のグロリオサでは、単価の回復や輸出拡大を目的とした、有望な鮮度保持剤の活用を検討しており、7月下旬にその一回目の実証試験を行いました。

試験結果から、「開花液」の後処理により、蕾の肥大や花卉の発色に大きな効果があり、蕾収穫でも使える資材であることが確認できました。農家からも花色とボリューム感において高い評価を得た一方、資材コストについて不安が残る意見もありました。

次回の試験では、よりコストを抑えた効率的な鮮度保持剤の使用方法を検討し、実際に普及できる技術となるよう、試験を継続していきます。

基礎から学ぶキュウリ作り ～新規就農者基礎研修～



熱心に講義を聴く新規就農者

8月1、8日に、JA高知春野きゅうり部会の新規就農者を対象に基礎研修を行い、延べ28名の出席がありました。

1日は土づくり、栽培のポイント、8日は病害虫、環境制御技術などのテーマで、JA高知春野と普及所が講師をしました。「知識をもっと深めたい」、「定植までのタイムスケジュールが分かってよかった」といった反応や「資材や収入の試算が知りたい」という意見もあり、次回の研修内容に反映させることにしました。

8月22日と29日には、経営を学ぶ基礎研修も計画しており、JAと協力して新規就農者の栽培技術と経営資質の向上を支援していきます。

“こうちの農業が面白い”来て、見て、聞いてみて ～就農相談会 in イオン～



来場者に就農制度について説明

お盆の帰省シーズン中の8月16日、県主催で「就農相談会 in イオン」が開催されました。普及所は、共催の高知市役所と連携し、キュウリやユリの「産地提案書」による新規就農者の確保の取り組みや、移住や新規就農に向けた支援制度などのPRをしました。

具体的な就農相談は少なかったものの、「知人が春野でキュウリ農家になり、就農への興味を持った」という相談もありました。また、JA高知市の農作業ヘルパー制度を熱心に聞く方もいました。

就農希望をされる方には、JAや市などの関係機関と連携し、次のステップに進めるよう、支援をしていきます。

～県内のユズの生産を学ぼう～ JA高知市土佐山ユズ生産組合視察研修会



担当者から説明を受ける組合員

8月25日に、土佐山ユズ生産組合の組合員等28名が参加して安芸郡北川村ユズ部会の視察研修を行いました。

北川村の平野部のユズ園で日焼け防止のサンテ処理や農薬使用や栽培方法について、その後、ユズ搾汁施設の見学や北川村のユズの取り組みについて研修しました。

組合員からは、サンテの使用時期、果汁価格、搾汁加工労働条件や新規就農者、村がユズ園地を取得する村単独事業など質問が多く出され、北川村の取り組みに関心が高まりました。

普及所では、北川村の取り組みを参考にしながら、土佐山ユズ生産組合の生産や加工について支援していきます。